

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第62集

蛇塚B遺跡群

野馬久保遺跡II

NOMAKUBO

長野県佐久市新子田

蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡II発掘調査報告書

1998, 3

与志本林業株式会社
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第62集

蛇塚B遺跡群

野馬久保遺跡II

NOMAKUBO

長野県佐久市新子田

蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡II発掘調査報告書

1998, 3

与志本林業株式会社
佐久市教育委員会

例 言

- 1 本書は、平成9年に調査した、長野県佐久市大字新子田に所在する蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡IIの調査報告書である。

遺 跡 名 蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡II
所 在 地 長野県佐久市大字新子田字野馬久保1930、1931
調 査 面 積 2,904㎡
開 発 主 体 者 与志本林業株式会社
開 発 事 業 名 宅地造成

- 2 本調査は、与志本林業株式会社の委託を受けた佐久市教育委員会が実施した。
- 3 本調査は、羽毛田卓也を担当者とし、地元の皆様をはじめ多数の方の協力を得て実施した。
- 4 本遺跡に関わるすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
- 5 本書作成の主たる作業分担は、以下のとおりである。

遺物・遺構実測 羽毛田卓也、神津ツネヨ、花岡美津子、細萱ミスズ
遺物・遺構トレス、写真、執筆・編集 羽毛田卓也

凡 例

- 1 遺跡の略称 AHBN II
- 2 遺構の略称 M→溝状遺構
- 3 遺構の縮尺は図中にスケールを付したので参照されたい。
- 4 遺構の海拔標高は、各遺構ごとに統一し、測量基準ライン上に明記した。
- 5 写真図版・表中の番号（例12-3）は挿図番号（例第12図3番）と対応する。
- 6 土層説明中の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・（財）日本色彩研究所色票監修1987年度版『新版標準土色』の表示に基づいた。
- 7 遺構図版中の斜線スクリーントーンは地山を表す。

目 次

例言

凡例

目次

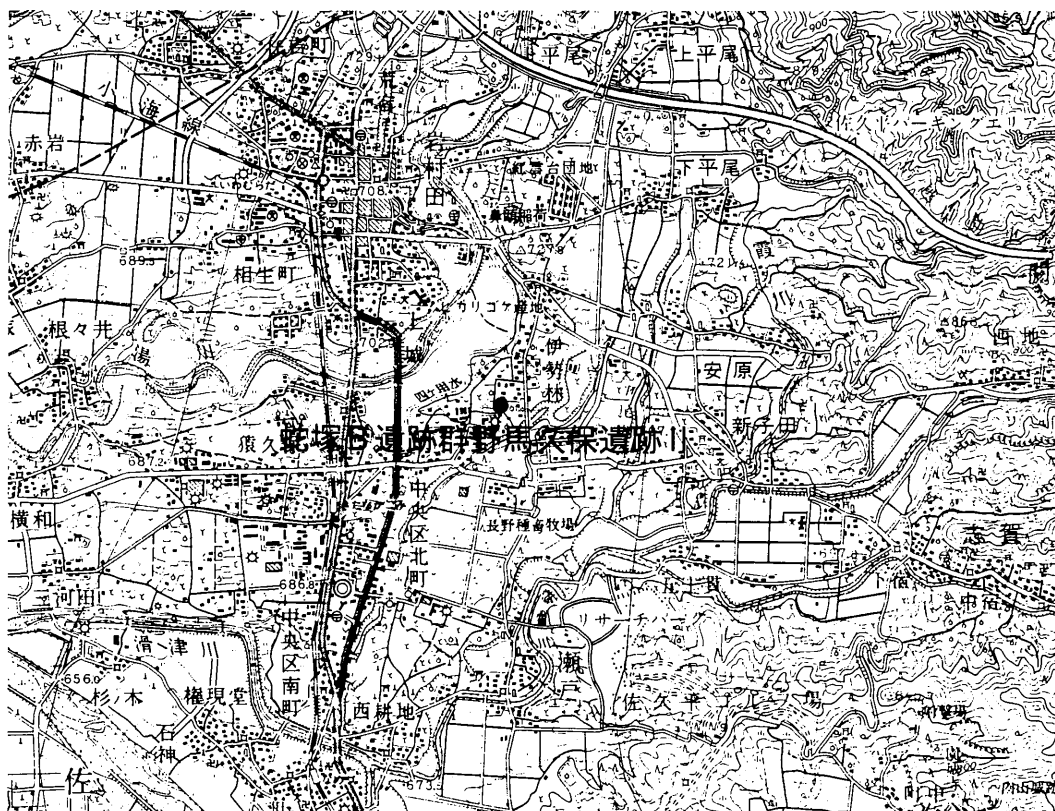
第 I 章 発掘調査の経緯	1
1 調査に至る動機	1
2 調査の概要	3
3 調査の体制	3
4 調査日誌	4
第 II 章 遺跡の位置と環境	5
1 遺跡の自然的環境	5
2 遺跡の歴史的環境	5
第 III 章 層序	8
第 IV 章 遺構と遺物	10
1 溝状遺構	10
1) M1号溝状遺構	10
2) M2号溝状遺構	10
写真図版	13

第 I 章 発掘調査の経緯

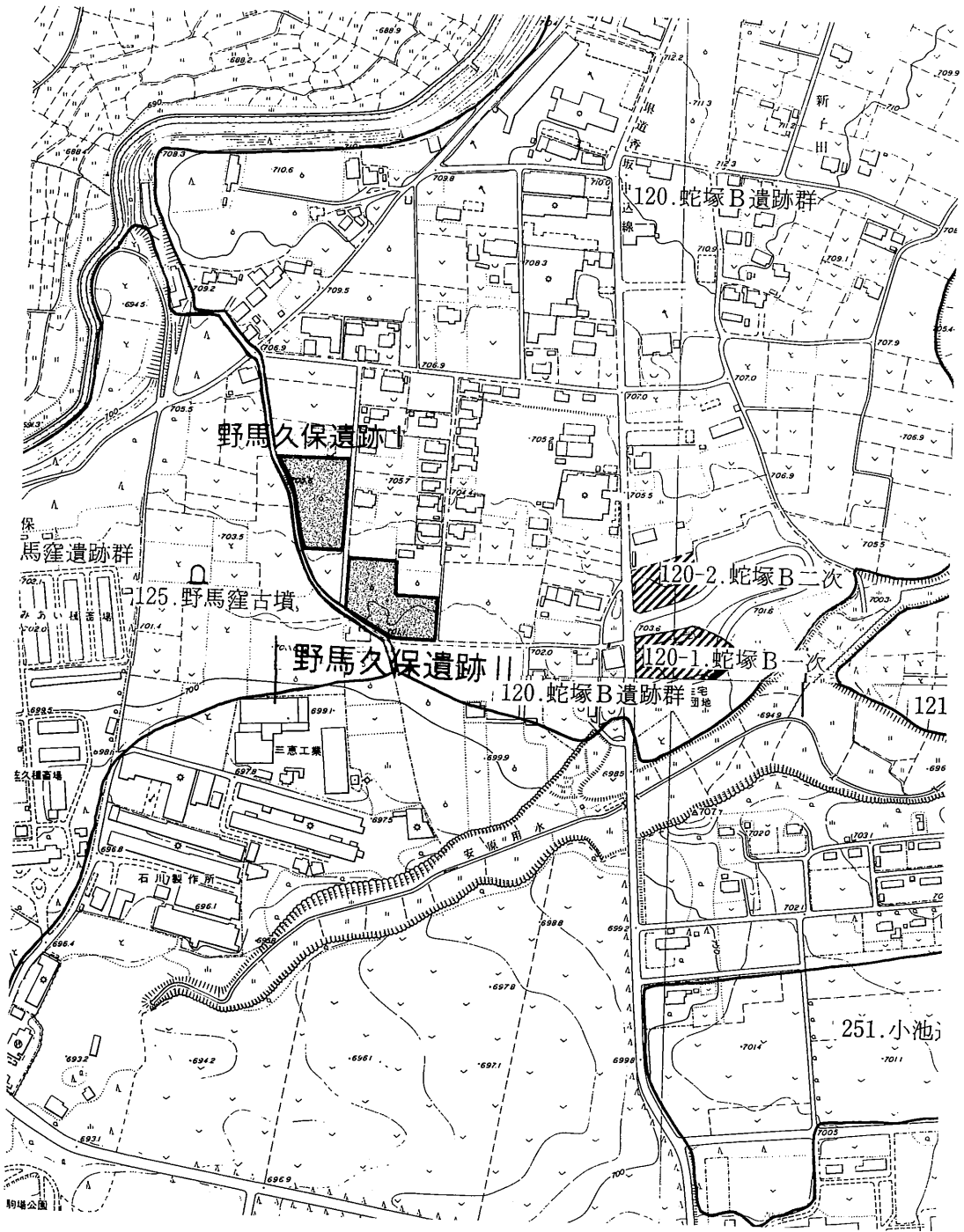
1 調査に至る動機

蛇塚B遺跡群は、佐久市大字新子田に所在し、湯川と南北に伸びる田切地形(帯状低地と帯状台地の交互地形)に挟まれた帯状台地上標高700mから715mに展開する平安時代の遺跡である。野馬久保遺跡は平成2年～3年に調査され平安時代と考えられる住居址と溝が確認されている。今回調査した野馬久保遺跡IIは、本遺跡群南西端の標高703m内外を測る微高地斜面に位置する。

今回、与志本林業株式会社が行う宅地造成事業に伴い、与志本林業株式会社と佐久市教育委員会とで協議の結果、試掘調査により遺構の確認作業を行うこととなった。試掘調査により対象地全体に溝状遺構が広がっていることが判明し、再度両者で協議を行った。その結果、与志本林業株式会社より委託を受けた佐久市教育委員会が主体となって発掘調査を行う運びとなった。



第1図 蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡II位置図(1:50,000)



第2図 蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡II位置図(1:5,000)

2 調査の概要

平成9年度	試掘調査		
	調査面積	2,904㎡	
	調査期間	平成9年4月3日から4月4日	
	検出遺構	溝状遺構	2条
平成9年度	本調査		
	調査面積	約1,000㎡	
	調査期間	平成9年5月8日から平成9年5月20日	
	調査遺構	平安時代の溝状遺構	2条
	整理調査	平成9年12月26日から平成10年3月31日	

3 調査の体制

平成9年度

事務局	佐久市教育委員会埋蔵文化財課
教育長	依田英夫
教育次長	市川 源
埋蔵文化財課長	須江仁胤
管理係長	棚沢慶子
埋蔵文化財係長	大塚達夫
埋蔵文化財係	林幸彦、三石宗一、須藤隆司、小林真寿、羽毛田卓也 富沢一明、上原学
調査主任	佐々木宗昭、森泉かよ子
調査員	荒井利男、飯沢つや子、磯貝はな、江原富子、柏原松枝、花岡美津子、川多アヤ子、 神津ツネヨ、細萱ミスズ、山口丑男

4 調査日誌

平成9年5月8日

現地打合わせ、機器材の搬入など

平成9年5月8日・9日

重機による掘削

平成9年5月9日～

遺構の掘り下げ開始

平成9年5月12日～

実測作業開始 写真撮影開始

平成9年5月19日

遺構の掘り下げ終了

平成9年5月20日

機器材の搬出

平成9年12月26日～平成10年3月31日

土器等水洗いおよび遺物の注記、実測図面の修正

土器の復元、石器・土器の実測

遺構・遺物のトレース、遺物の写真撮影

本文の原稿執筆および編集作業

第II章 遺跡の位置と環境

1 遺跡の自然的環境

佐久平は、北に浅間山を主とする三国山脈の南端峰群、東から南に関東山地から連なる山々である佐久山地、西から南に八ヶ岳連峰と、四方を山々に囲まれた盆地で、長野県の中央東端に位置する。佐久平全体の平坦部の標高は600mから1000mを測り、佐久市はこの佐久平のほぼ中央に位置し、平坦部の標高は620mから770mを測る。また北側で軽井沢町・御代田町・小諸市と、西側で浅科村・望月町と、南側で茅野市・佐久町・白田町と、東側で群馬県下仁田町・南牧村と接している。

佐久市の中央部を佐久地方南端の甲武信ヶ岳に源を発する千曲川が北進し、浅間山に源を発する湯川・濁川、佐久山地に源を発する霞川・香坂川・志賀川・滑津川・田子川・瀬早川・八重久保川、八ヶ岳に源を発する石突川・片貝川・大沢川・中沢川・小宮山川・倉沢川・宮川などの小河川がそれに向かって集まり、大小の扇状地や河岸段丘を形成している。佐久山地の八風山や寄石山・物見山・兜岩山・熊倉峰・荒船山は、石英安山岩類や溶結凝灰岩類・ガラス質の荒船安山岩類により形成されている。これらの山の基盤には第三紀層・中生層や古生層が広がっているとされている。内山の初谷層は中生層で内山層は第三紀層である。また兜岩層・駒込層・八重久保層は第三紀層である。

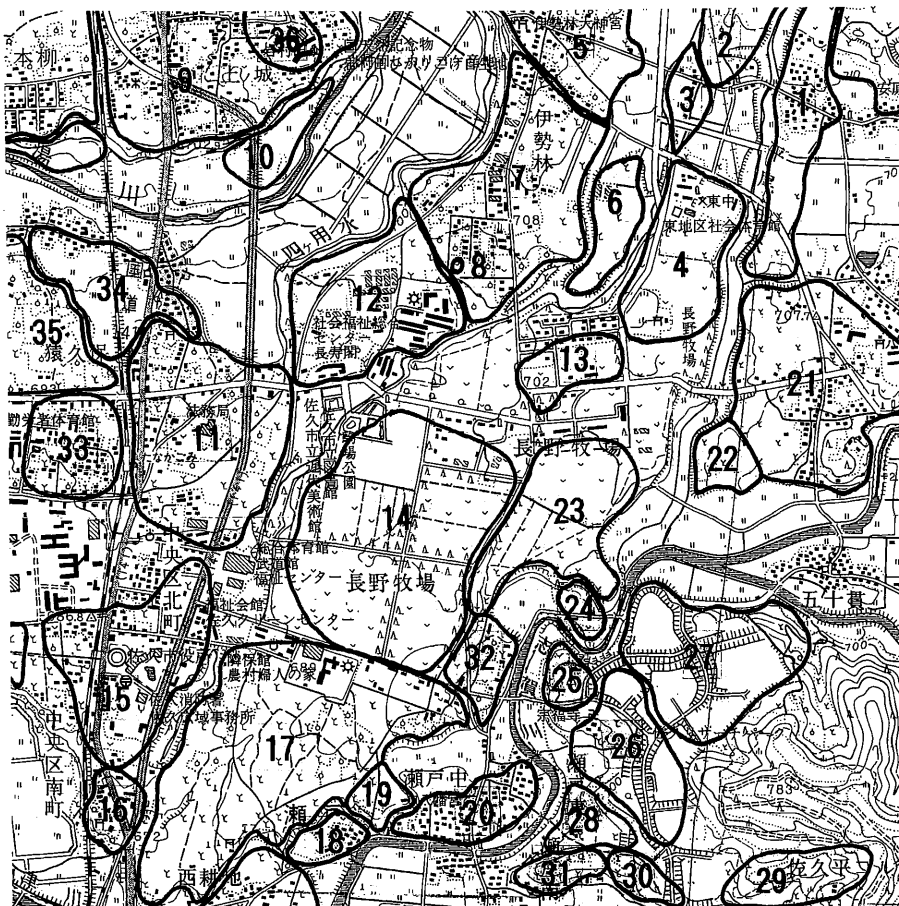
浅間山は今から1万4千年から1万1千年前にかけて2回にわたる大規模な噴火をし、軽石流(火砕流)を発生させている。平成4年度の寄山遺跡の調査で軽石流により埋没した林が発見された。発見された木々は立ったままの状態、発見面から根元までは7mの深さであった。この地は軽石流の最南東端にあたり、斜面に乗り上げる形で堆積している。そのため木々は倒れることなく立ったまま埋まったと想定される。樹種はほとんどが針葉樹のトウヒ属であり、現在より冷涼な気候であったことがうかがえる。佐久平の北側は、浅間山第1軽石流の火山噴出物によって厚く覆われ、雄大な山麓を形成している。この山麓は火山噴出物の性格上水の各種作用を受けやすく、大小様々な峡谷や「田切り地形」と呼ばれる帯状台地と帯状低地の交互地形が見られる。今回調査した野馬久保遺跡IIは、佐久市の東側の南北に伸びる田切り低地と湯川に挟まれた帯状台地緩斜面上に展開している。

2 遺跡の歴史的環境

今回調査した蛇塚B遺跡群は、平安時代を主体とする遺跡で、昭和54年(蛇塚B遺跡I)と58

年（蛇塚B遺跡II）、平成6年（蛇塚B遺跡III）に調査され平安時代の集落が検出されている。また今回調査地に接する北西部では平成2年（野馬久保遺跡I）に調査され平安時代の住居址と溝状遺構が検出されている。この溝状遺構は今回の調査により検出されたM1号溝状遺構と同一遺構と考えられる。

この地域の平安時代の集落は田切り低地に挟まれた帯状台地に広範囲に展開している。本遺跡群北側には蛇塚A遺跡群（第3図・第1表-5）、西側には田切りを隔てて昭和60年に調査され平安時代から中世の集落が検出された東内池遺跡（6）・昭和61年と平成7年に調査され平安時代から中世の集落が検出された高師町遺跡群（4）・猫久保遺跡群（3）などが展開している。いずれも平安時代を主とする遺跡であり本遺跡群も含めかなりの数の平安時代の集落が予想される。また本遺跡群南西には隣接して弥生時代から平安時代にかけての複合遺跡である野馬窪遺跡群（12）が展開する。

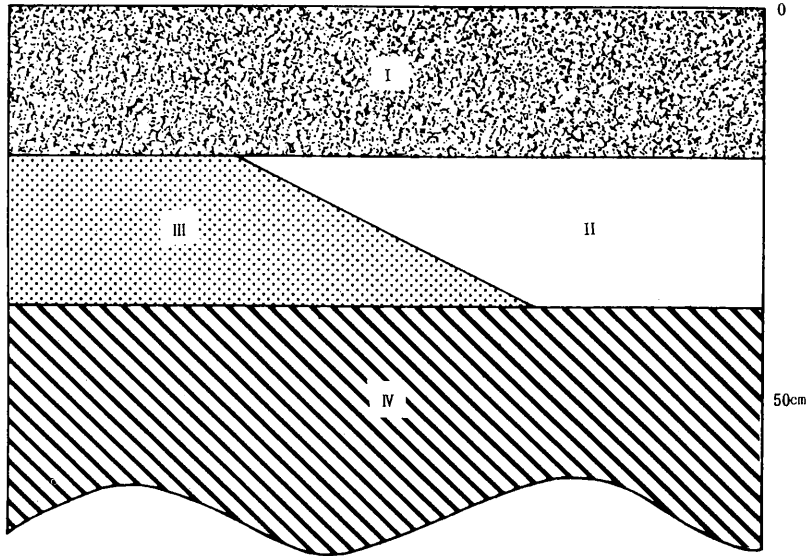


第3図 周辺遺跡分布図(1:25,000)

第1表 周辺遺跡一覧表

No.	遺跡名	時代	所在地	備考
1	筒畑遺跡群	縄文・平安	安原・新子田	田端遺跡(H1)
2	戸屋敷遺跡群	平安	安原・下平尾	
3	猫久保遺跡群	平安	安原	
4	高師町遺跡群	平安～中世	安原	高師町遺跡(S61、H7)
5	蛇塚A遺跡群	平安	安原	
6	東内池遺跡群	平安～中世	新子田	東内池遺跡(S60)
7	蛇塚B遺跡群	平安	新子田	蛇塚B遺跡(S54、58、H6)、野馬久保遺跡(H2)
8	野馬久保遺跡II	平安	新子田	今回調査
9	上の城遺跡群	縄文～中世	岩村田	上の城遺跡(S43)、上の城丹過遺跡(S54) 西八日町遺跡(S58)、観音堂遺跡(H9)
10	岩井堂遺跡	弥生～平安	岩村田	
11	番屋前遺跡群	弥生・平安	猿久保・中込	番屋前遺跡(H8)
12	野馬窪遺跡群	弥生～平安	猿久保	野馬窪遺跡(S56)
13	小池遺跡	弥生～平安	新子田	
14	馬瀬口遺跡群	弥生・平安	瀬戸	
15	大塚遺跡群	弥生・平安	中込	
16	深堀城跡	中世	瀬戸	
17	深堀遺跡群	縄文～中世	瀬戸	深堀遺跡(S40)
18	八反田遺跡	平安	瀬戸	
19	八反田城跡	中世	瀬戸	
20	中反遺跡群	平安	瀬戸	
21	戸坂遺跡群	弥生～中世	新子田	戸坂遺跡(S46)
22	鳥坂城跡	中世	新子田	
23	和田上遺跡群	縄文～中世	新子田・瀬戸	和田上南遺跡(S54)
24	和田遺跡	縄文～平安	瀬戸	
25	中条峯城跡	中世	瀬戸	中条峯遺跡(H1・2)
26	中条峯遺跡	縄文～平安	瀬戸	中条峯遺跡(H1・2)
27	寄山遺跡群	縄文～中世	瀬戸・志賀	勝負沢遺跡(H2～4)、寄山遺跡(H3・4)
28	南海道遺跡	古墳～平安	瀬戸	
29	長峯遺跡	縄文	瀬戸	
30	宮の脇遺跡	縄文～平安	瀬戸	
31	城山城跡	中世	瀬戸	
32	鷺の宮遺跡	縄文・平安	瀬戸	
33	西妻神遺跡	弥生・平安	中込	
34	猿久保屋敷添遺跡	弥生～平安	猿久保	
35	寺畑遺跡群	縄文～平安	猿久保・根々井	寺畑遺跡(H7)
36	藤ヶ城跡	近世	岩村田	

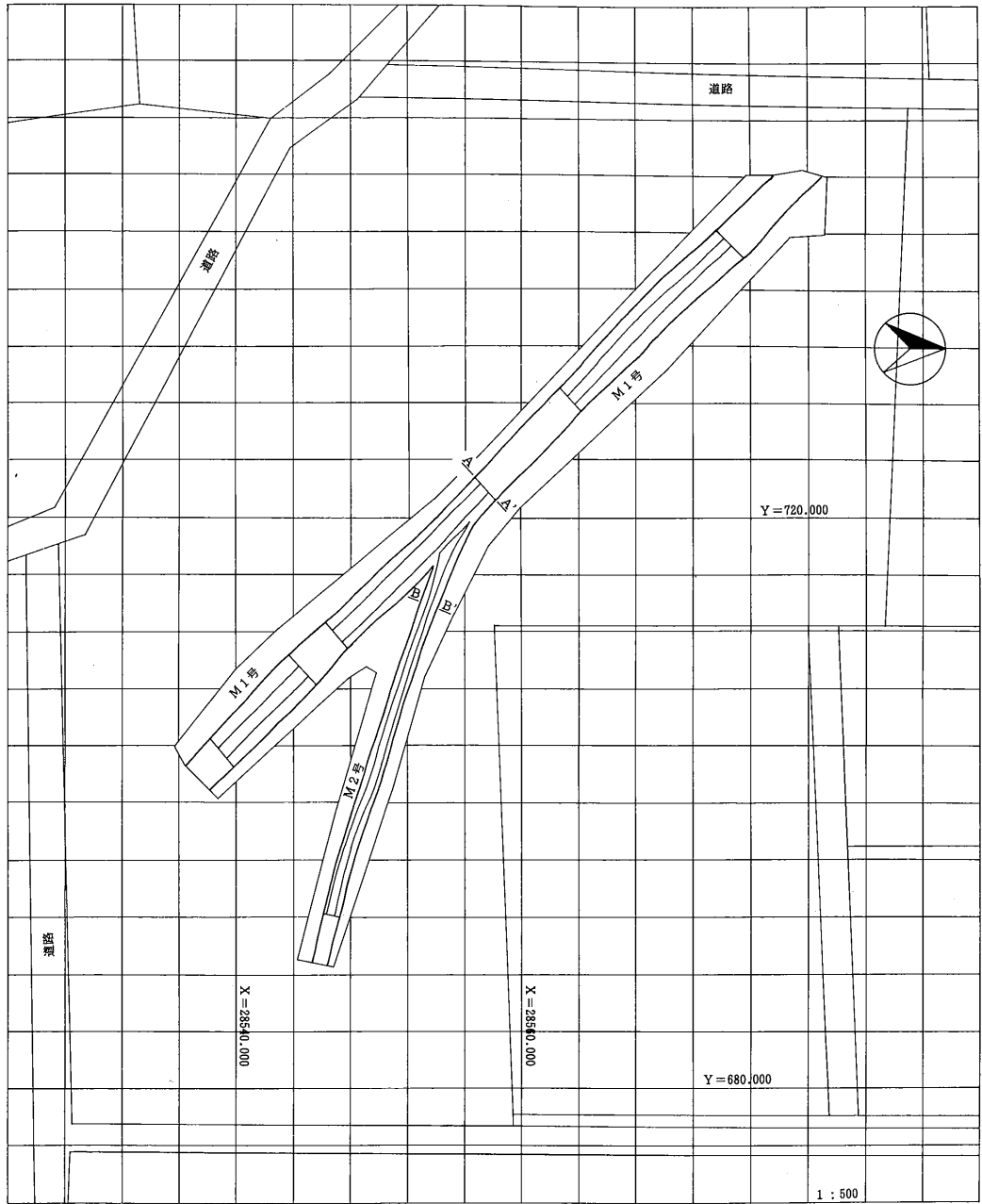
第三章 層序



第4図 野馬久保遺跡II層序模式図

蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡IIは、標高702m～705mを回り、南東から南に向かって緩やかに傾斜する。基本とした層序は調査区北西部・北東部・南東部において観察した。

第I層は耕作の影響下で成立した黒褐色土、第II層はローム粒子と炭化材微小片・パミス極小粒以下を微量含む黒色土、第III層はローム粒子を少量とパミス径2cm以下を微量含む褐色土、第IV層はパミス径2cm以下を少量含む明黄褐色ロームである。確認された2条の溝状遺構は、第IV層の上面において検出された。



第5図 蛇塚B遺跡群野馬久保遺跡II全体図 (1:500)

第IV章 遺構と遺物

1 溝状遺構

1) M1号溝状遺構

M1号溝状遺構は、調査区の北西から南東にかけて検出され、M2号溝状遺構を破壊する。

壁面・底面ともにおおむね平滑で、検出面から底部までの深さは、85cm～111cmを測る。底面は北西から南東に向かってレベルを低下させ、比高差は156cmを測る。

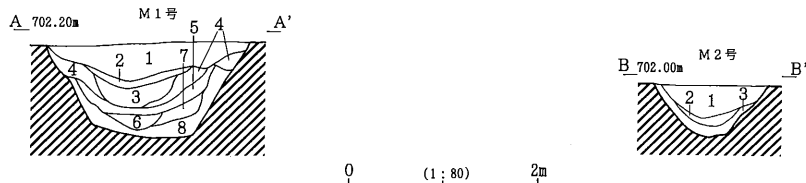
遺物は、平安時代の土師器・須恵器の坏と甕などが出土した。

2) M2号溝状遺構

M2号溝状遺構は、調査区の中央から東にかけて検出され、M1号溝状遺構に破壊される。

壁面・底面ともにおおむね平滑で、検出面から底部までの深さは、33.5cm～54.5cmを測る。底面は西から東に向かってレベルを低下させ、比高差は20cmを測る。

遺物は、平安時代の土師器・須恵器の坏と甕などが出土した。



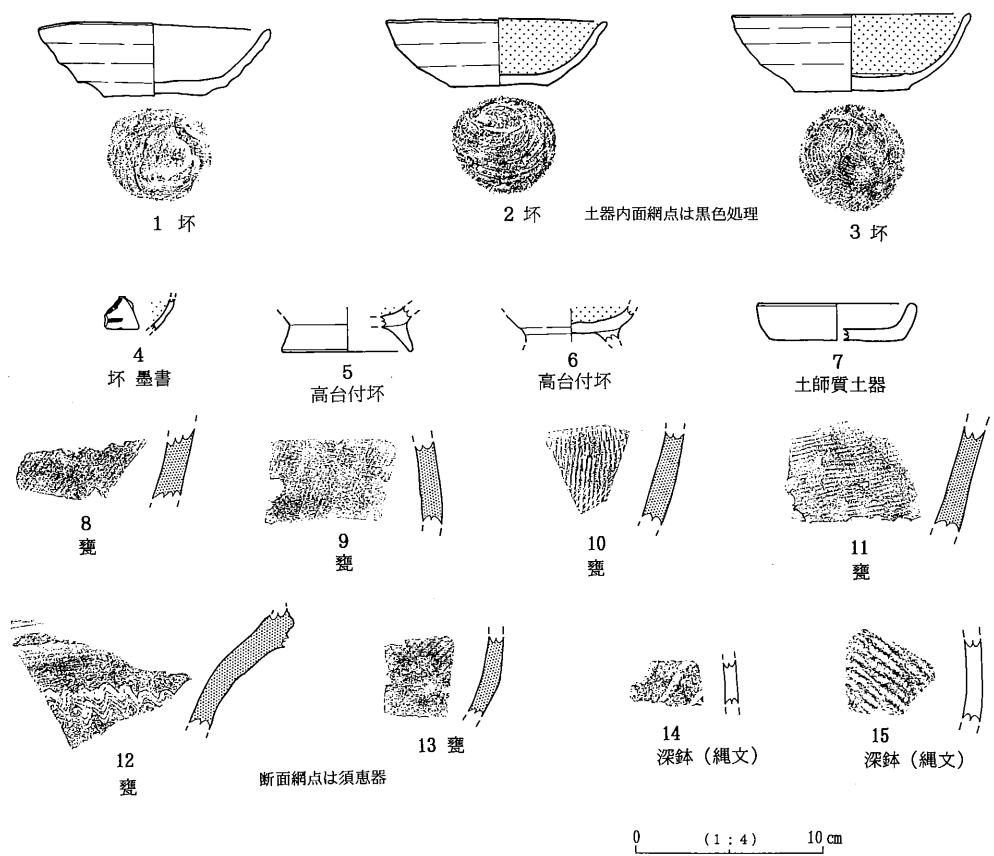
土層説明

- 1 黒褐色土層 砂粒・ローム・炭化材微小片を微量含む。10YR2/2
- 2 黒色土層 ローム・炭化材微小片を微量含む。10YR1.7/1
- 3 黒褐色土層 ローム・炭化材微小片を微量含む。10YR2/3
- 4 黒褐色土層 砂粒・ロームを少量含む。10YR3/2
- 5 暗褐色土層 砂粒・ロームを少量、バミスを微量含む。10YR3/3
- 6 暗褐色シルト層 10YR3/4
- 7 にぶい黄褐色土層 ローム・シルトを多量含む。10YR4/3
- 8 褐色土層 ローム主体。10YR4/6

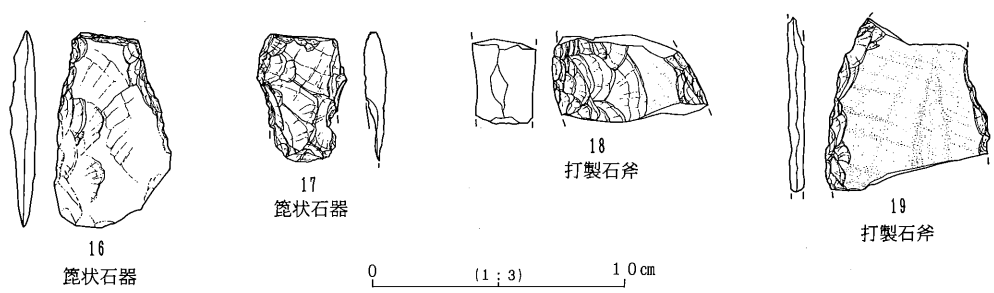
土層説明

- 1 黒褐色土層 砂粒・ローム・炭化材微小片を微量含む。10YR2/2
- 2 黒褐色土層 ローム・炭化材微小片を微量含む。10YR2/3
- 3 褐色土層 ローム主体。10YR4/6

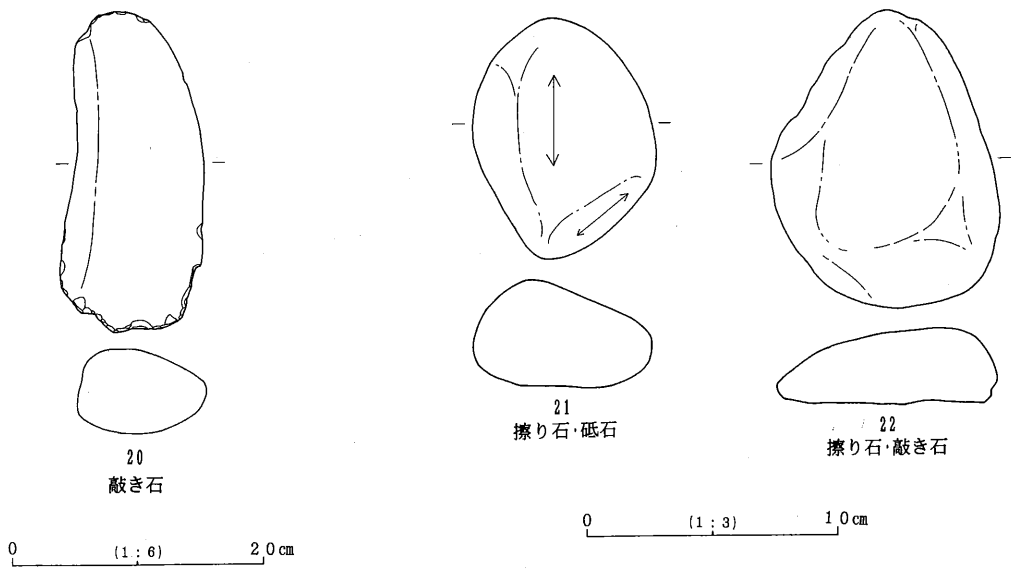
第6図 M1号・M2号溝状遺構土層断面図



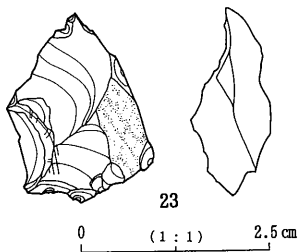
第7図 野馬久保遺跡II出土土器実測図



第8図 野馬久保遺跡II出土石器実測図



第9図 野馬久保遺跡II出土石器実測図



第10図 野馬久保遺跡II出土石器実測図

第2表 野馬久保遺跡II出土石器説明表

挿図番号	種類	材質	出土地点	特徴
10-23	石鏃 (未製品)	黒曜石	M1号	成形段階で破棄。

第3表 野馬久保II出土遺物説明表

挿図番号	種類	材質	出土地点	特徴
7-1	坏	土師器	M1号	内外面ロクロ横ナデ。底部回転糸切り。
7-2	坏	土師器	M1号	外面ロクロ横ナデ。内面篋ミガキ、黒色処理。底部回転糸切り。
7-3	坏	土師器	M1号	外面ロクロ横ナデ。内面篋ミガキ、黒色処理。底部回転糸切り。
7-4	坏 墨書	土師器	M1号	墨書「不明」。内面篋ミガキ、黒色処理。
7-5	高台付坏	土師器	M2号	内面篋ミガキ、黒色処理。底部高台貼付け。
7-6	高台付坏	土師器	M1号	内面篋ミガキ、黒色処理。底部貼付け高台。
7-7	土師質土器	土師器	M2号	内面黒色炭化物付着。混入か？
7-8	甕	須恵器	M1号	叩き目調整。
7-9	甕	須恵器	M1号	叩き目調整。
7-10	甕	須恵器	M1号	叩き目調整。

第4表 野馬久保II出土遺物説明表

挿図番号	種類	材質	出土地点	特徴
7-11	甕	須恵器	M2号	叩き目調整。
7-12	甕	須恵器	表採	叩き目調整。
7-13	甕	須恵器	表採	叩き目調整。
7-14	深鉢	縄文	M1号	沈線文。混入。
7-15	深鉢	縄文	M2号	縄文。混入。
8-16	篋状石器	黒色緻密安山岩	M1号	側面・基部潰し調整。刃部を中心に著しい使用摩耗痕。
8-17	篋状石器	黒色緻密安山岩	M1号	刃部折損。
8-18	打製石斧	輝石安山岩	M1号	未製品。側面剥離途中折損、破棄。
8-19	打製石斧	輝石安山岩	M1号	基部のみ残存、他は折損。
9-20	敲き石	安山岩	M2号	両端部を中心に使用剥離痕。
9-21	擦り石・砥石	安山岩	M1号	3面を砥石として使用。端部を中心に使用擦過痕。
9-22	擦り石・敲き石	輝石安山岩	M1号	端部を中心に使用擦過痕・摩耗痕。



野馬久保遺跡II 調査風景



全景 北西より 手前がM1号、奥がM2号



M1号溝状遺構 北西より



M2号溝状遺構 西方より



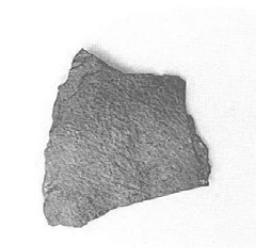
高台付坏 7-5 (1:3)



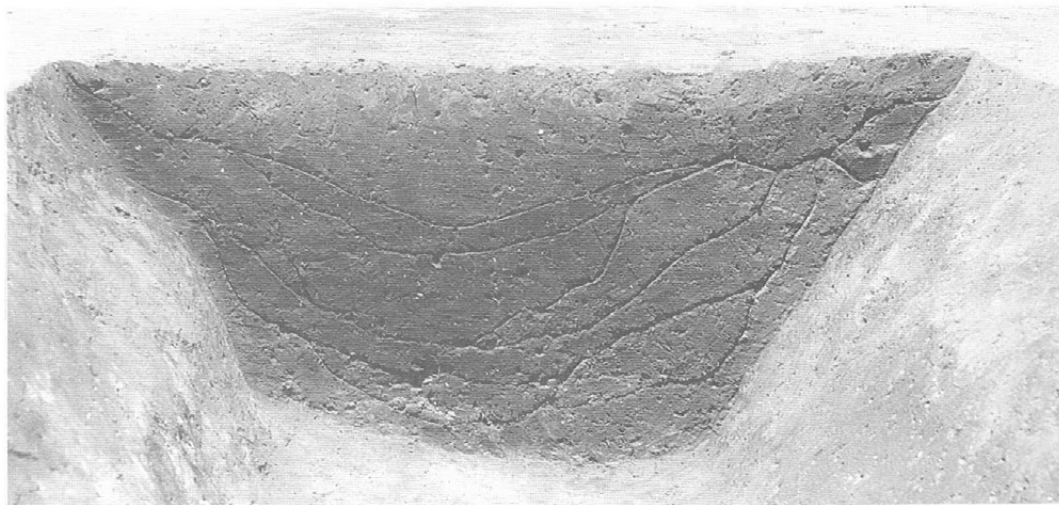
高台付坏 7-6 (1:3)



土師質土器 7-7 (1:3)



打製石斧 8-19 (1:3)



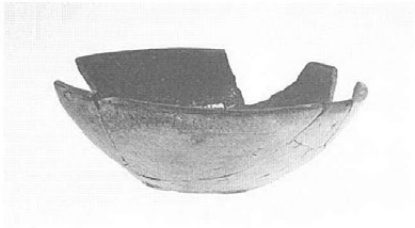
M1号溝状遺構 土層断面



坏 7-1 (1:3)



坏 7-2 (1:3)



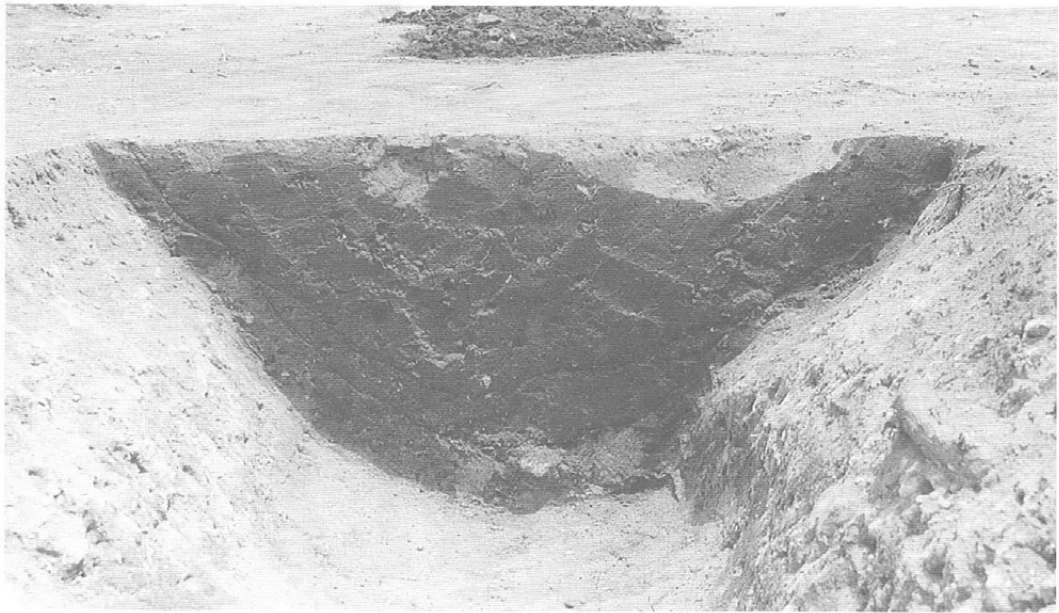
坏 7-3 (1:3)



铍状石器 8-16 (1:3)



石铍未製品 10-23 (1:1)



M2号沟状遺構 土層断面

佐久市埋蔵文化財調査報告書

- 第11集 『赤座垣外遺跡』
第12集 『若宮遺跡II』
第13集 『上高山遺跡II』
第14集 『栗毛坂遺跡』
第15集 『野馬久保遺跡』
第16集 『石並遺跡』
第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』(1~3月)
第18集 『西曾根遺跡』
第19集 『上芝宮遺跡』
第20集 『下聖端遺跡III』
第21集 『金井城跡III』
第22集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』
第23集 『南上中原・南下中原遺跡』
第24集 『上聖端遺跡』
第25集 『上久保田向IV』
第26集 『藤塚古墳群・藤塚II』
第27集 『上久保田向III』
第28集 『曾根新城V』
第29集 『山法師遺跡B・筒村遺跡B』
第30集 『市内遺跡発掘調査報告書1992』
第31集 『山法師遺跡A・筒村遺跡A』
第32集 『東ノ割』
第33集 『聖原遺跡VII・下曾根遺跡I・前藤部遺跡I』
第34集 『西一本柳遺跡I』
第35集 『市内遺跡発掘調査報告書1993』
第36集 『蛇塚B遺跡III』
第37集 『西一本柳遺跡II・中西ノ久保遺跡』
第38集 『南下中原遺跡II』
第39集 『中屋敷遺跡』
第40集 『寺畑遺跡』
第41集 『曾根新城I~IV・VI他』
第42集 『寄山』
第43集 『権現平遺跡』
第44集 『寺添遺跡』
第45集 『市内遺跡発掘調査報告書1994』
第46集 『濁り遺跡』
第47集 『上芝宮遺跡V』
第48集 『池端城跡』
第49集 『根々井芝宮遺跡』
第50集 『藤塚遺跡III』
第51集 『寺中遺跡・中屋敷遺跡II』
第52集 『坪の内遺跡』
第53集 『円正坊遺跡II』
第54集 『市内遺跡発掘調査報告書1995』
第55集 『番屋前遺跡』
第56集 『聖原遺跡X』
第57集 『高師町遺跡II』
第58集 『下穴虫遺跡I』
第59集 『市内遺跡発掘調査報告書1996』
第60集 『曾根城遺跡II』
第61集 『割地遺跡』

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第62集

野馬久保遺跡II

1998年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

埋蔵文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953

Tel 0267-68-7321

印刷所 株式会社 櫟 <いちい>
